

ことう地域チームケア研究会たより

第 14号
発行 平成27年5月25日



去る5月14日に、第14回目の研究会が開催されました。
日時：平成27年5月14日(木) 18:30～20:30
会場：くすのきセンター1階研修室
参加者：70名(医療関係者32名、福祉関係者18名、行政等20名)
今回は、第5地区訪問看護ステーション連絡協議会話題提供をしていただきました。そのあと、8のグループに分かれて意見交換を行いました。

今回の話題提供は・・・

『その人の望む暮らしを支える訪問看護のケア』

第5地区訪問看護ステーション連絡協議会

話題提供：訪問看護ステーションふれんず 柴田恵子さん

看取りについて

☆湖東圏域には8か所の訪問看護ステーションがあります

* 訪問看護ステーション

- ・ あなたの町の看護師さん
- ・ ☆ あなたの家が病室 ∞ 道路が廊下
- ♪ 電話がナースコール
- ・ 赤ちゃんから高齢者・難病・がん・看取りまで
- ・ 在宅チーム
- 〔医師・ケアマネ・ヘルパー
・福祉用具・訪問入浴等々〕



◀ 訪問看護のお仕事 ▶

- ・ 健康チェックや療養の相談
- ・ リハビリテーション
- ・ ご家族等への介護支援、相談
- ・ 医療処置・医療機器の管理
- ・ 認知症の看護や心のケア
- ・ お家で最期を迎えるお手伝い…等々



在宅ケアの不思議な力（秋山正子氏）

- ・ 在宅ケアでは、終末期の患者の思いがけない力に
- ・ 驚かされることがあると聞きます。それは、自宅が本来の居場所であり、自分らしさが保てる場であるからではないでしょうか…。
- ・ 家族をチームケアの一員として支援しながら患者さんを看取る状態にしていく視点が重要
- ・ 看護の基本は「その人が持っている力を引き出すこと」患者さんだけでなく、ご家族の持っている力を最大限引き出していくスキルを持つことが大切



暮らしの中の緩和ケア

病気は治せないかもしれないけど・・・？
在宅介護は しんどいだけでしょうか？
利用者・家族・お世話をしている方の
喜び／希望／覚悟

慣れ親しんだ暮らしの中で **共に生きる＝絆**
在宅医療チームがあなたの居場所で待っています



その人の望む生活の場所はさまざま。安心して過ごせるその人の居場所で生活を支えていきます。

最期まで在宅での生活を支えるには覚悟が必要です。…迷いや不安はあると思いますが、チームで支え合うことで、喜びや希望をもつことができます。

『花かたばみの会』にもぜひ、ご参加ください

「お母ちゃんが苦しまないようにだけしてほしい」

「最期まで家にいてくれたから…母が喜ぶことをさせてもらった」

「いつでも緩和ケア病棟に入院できると思っていたから最期まで安心して自宅で看取れました」

「自家製味噌とおーい(妻)が作る琵琶湖のシジミ汁」

「孫の声はよう聴こえています。デイサービスに行くときはしっかりしています」

交流会・自己紹介タイム

～感想・自分たちができること・もっと知りたいこと～

感想

- ◆改めて、訪問看護、医師に頭が下がる思いでした。
- ◆訪問看護さんの活動は素晴らしい。最期の最期まで頼りにしてよかったです
- ◆在宅での看取りが、医師と看護師だけでなくいろいろな職種と連携して支援されていることがわかった
- ◆在宅看取りだけがゴールではない。その時の状況を見て大切にスピードのある対応をしないといけないと思った。

在宅看取りをするために今私たちができること

- 在宅で見ている人に伝えたい。緩和ケアとつながっていると。
- 在宅医療の需要が高まってきている。チームとして応えられるようになりたい。
- 在宅で看取るための環境（地域支援、インフォーマルサービス等）を整えていけたらいいと思う。
- 在宅看取りを支えるための体制づくりを考えたい
- 病院から退院前にサポートチームとの顔合わせをしていきたい
- 本人の思いをかなえるために家族ともよく話し合い、家族負担を考慮したプランの提示をしていきたい
- 病院もすべて担当医が抱え込むのではなく、患者に当番の医師がすぐわかるようなシステムを作っていきたい
- 医療機器、福祉用具も含めて住環境整備の支援を専門家として関わりをもちたい
- かかりつけ医と連携し、在宅で急変時の受け入れをスムーズに調整し、また、在宅復帰への調整を図っていきたい
- 本人の思いをくみ取るようにしたい
- 今後もグループホームでの看取りができるように本人、家族との話し合い、体制づくり、研修を行っていきたい
- 回復期病棟から在宅への支援をしたい
- 住民への啓発を考えていきたい
- 一人の思いでは出来ないことなので、医師も含めてチームでアプローチできるようにしていきたい
- 人生の最期（ゴール）の視点も入れて支援をしていきたい

在宅看取りで困っていること

- ◆在宅看取りは本人、家族の同意（覚悟）が重要。
- ◆周囲の声を気にしてしまう傾向がある。住民の理解、啓発が必要なのではないか。
- ◆どうしたら本人の思いを尊重できるのか。家族の負担を考えると難しいことがある。
- ◆本人の意思確認が難しい場合どうしたらいいのか。
- ◆家族の決断をどうサポートしていくといいのか。
- ◆訪問看護の導入に医師の同意が得られない時どうしたらいいか
- ◆家族がいない人の看取りの支援について
- ◆看取りに関わる医師がまだ少ないのではないか。
- ◆経済的なこと、利用料の問題
- ◆在宅看取りに関しての医師との思いのずれをどうするか

花かたばみ（あなたと共に）の会

- 「花かたばみ（あなたと共に）の会」とは「身近な人に囲まれて、自宅で最期を迎えたい」という思いを、それを支える介護者が、
*不安や悩みを共に分かち合える
*相談できる場があるといいな
*看取りを知ってもらうために、情報を発信したい
- という思いから平成24年4月28日に発足した会です。
花かたばみの花言葉は、「私は、あなたと共に生きる」
この会の活動が「身近な人に囲まれて自宅で最期を迎えたい」という願う方々、介護者の支えとなり、その願いが実現できるよう歩んでいきたいと思えます
代表 井川 裕子



訪問看護を導入するタイミングは？
「悪くなってからではなく、在宅療養を始められる時に必要な？と思ったらずはご相談ください」

湖東圏域の訪問看護ステーション

- ◆友仁訪問看護ステーション
- ◆訪問看護ステーション レインボウひこね
- ◆訪問看護ステーション レインボウとよきと
- ◆訪問看護ステーション レインボウはたしょう
- ◆彦根市立病院訪問看護ステーション
- ◆訪問看護ステーションかがやきサテライト彦根
- ◆ニチケアセンター大藪訪問看護ステーション
- ◆訪問看護ステーション ふれんず

湖東圏域の訪問看護師さんはとても素晴らしい。多職種連携、チームケアをよくしてくれている。緩和ケア、急変時など病院との連携も行い在宅療養の支援体制が作られてきている。来たるべき時に備え、在宅での最期も安心して迎えらるるよう考えていきましょう。

“27年度の研究会は、テーマごとに事例を出しながら多職種連携について考えていきましょう！”

ご参加ください！ ことう地域チームケア研究会

お知らせメールの登録をお願いします

ことう地域チームケア研究会では、研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、①お名前 ②ご所属 ③ひとこと をいれて事務局までメール送信してください
★事務局 (mail) info@gen-ai-ken-kaigo.jp



次回は・・・平成27年7月9日(木) 18:30～20:30

テーマ：『かかりつけ医と病院の連携』

会場：くすのきセンター1階研修室

担当団体：彦根医師会・病院相談支援部門

*申し込み不要、当日会場へお越しください

問い合わせ先：ことう地域チームケア研究会事務局

彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455)

彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)

HP「在宅医療福祉の森」でも研究会のホームページをご覧いただけます。黄色矢印をクリック





こんなこと思いました



第14回

ことう地域チームケア研究会

- ◆彦愛犬の地域はチームでより良いサービスを提供しようという意識が他地域より強く、進んでいると感じました。
- ◆延命処置の線引きはどこになるのかという疑問が一点生じました。
- ◆チームケアの重要性、一つの目標に向けてチーム一丸となって取り組んでいく大切さを感じました。チームケアとして一つのケースをいろいろな職種から話を聞いてみたいと思いました。(それぞれの取り組み、苦労など)
- ◆実際に訪問看護の現場で行っていること、苦労していること、工夫していることを聞きたい
- ◆看取りは在宅、病院、施設、どの場合でも本人、家族が良かったと思えるように支えていければよいと感じた
- ◆病院、看護師の意見が聞けて良かった
- ◆現場の声を聴くことが出来て良かった
- ◆看取りのむずかしさ大変さを共感できました
- ◆在宅看取りで大切にしたいことをもう少し考えられたら良かった。
- ◆事例一つ一つもう少しどんな患者さんだったのか、周囲の家族の事やどれくらいの期間関わったのか詳しく聞きたかった
- ◆ゴールは一つではない。在宅看取りも一つの方法という考え方。在宅での訪問看護師の数(受け皿)は不足しているのでしょうか？
- ◆訪問看護とは、が良くわかる発表でした
- ◆在宅看取りの事例発表の部分の資料があれば良かったと思います。
- ◆看取り→死→哲学→ゴールへの支援 勉強になりました
- ◆訪問看護を頼むタイミング、柴田さんの発表を聞き、訪問看護との連携について
- ◆色々な立場の話が聞けて良かったです。看取りについても選択肢がたくさんできると良いと思います
- ◆看取りというこれから大きく注目されるであろうテーマについて家族や本人の不安、訪問看護の役割など考えられる機会となりよかったです
- ◆気軽に訪問看護に相談していいとのこと、いろいろ相談していきたいと思います。
- ◆訪問看護の役割、看取りについてわかりやすい話だった。「家で看取ってよかった』の声をもっともっと増やしていければ良いと思った。
- ◆いろんな職種の方の話を聞くことが出来良かったです
- ◆本人の意思確認はまだあまりされていない現状
- ◆看取りの看護では悩むことも多いので話題提供を聞き今後の参考になりました
- ◆訪問看護を入れるタイミングについての説明が参考になりました。



**当日の snap
(2015. 5. 14)**

